

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウルメイワシ

学名 *Etrumeus teres*

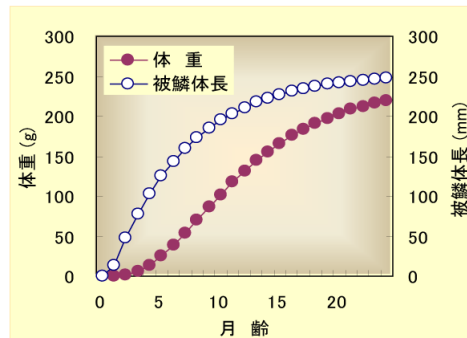
系群名 対馬暖流系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 2歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 東シナ海では周年、日本海では春季
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部～東シナ海
食性: 稚魚期・成魚期とも動物プランクトン
捕食者: 大型魚類やほ乳類、海鳥類、頭足類

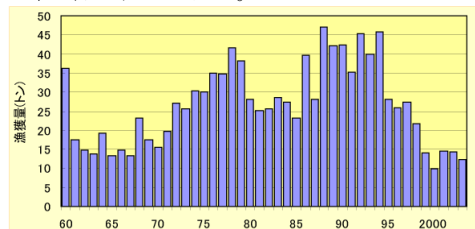


漁業の特徴

東シナ海では中小型まき網や敷網、日本海西区では大中型まき網、中型まき網、定置網、敷網により漁獲される。日本海北区では定置網、敷網、まき網などで混獲される程度である。漁獲が多いのは東シナ海区と日本海西区である。

漁獲の動向

対馬暖流域において1981～1997年の漁獲量は約23千～47千トンで推移していたが、1998～2000年に減少した。2001、2002年は2000年よりもやや漁獲量は増加した。2001年の漁獲量は約15千トン、2002年は約14千トン、2003年は約12千トンであった。

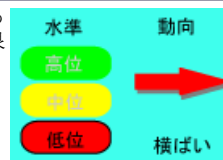


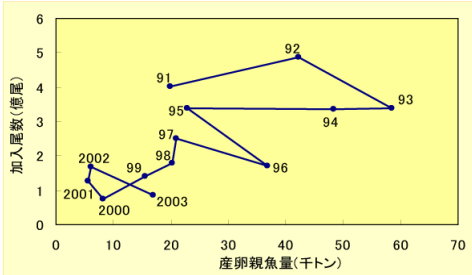
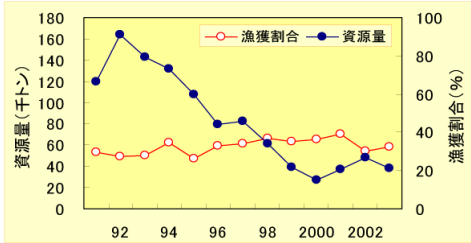
資源評価法

コホート解析により資源量を推定した。寿命は2歳とし、最近年のFは過去3年間の平均値とした。自然死亡係数は1.5とした。ほかに、ノルバックネット鉛直曳による卵豊度の推定を行った。

資源状態

コホート解析から計算された資源量は、1992年に164千トンのピークを示した後、減少しつづけて、2000年には近年で最低の27千トンとなった。2001年以降は当歳魚の加入がやや良く、資源量は2002年は48千トン、2003年は38千トンと推定された。2001年以降の卵豊度は1990年代後半よりは多い状況にある。





管理方策

本資源は当歳魚を主体に漁獲されており、加入の成否により漁獲量が決定される。現状では資源が低位であるので、漁獲圧を抑えて資源を回復することを目標とする。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	12千トン	0.8Fcurrent	1.4	43.1%
ABCTarget	11千トン	0.8・0.8Fcurrent	1.1	37.5%

F値は各年齢の単純平均
漁獲割合=ABC/資源重量
資源量は1月の値

資源評価のまとめ

- コホート解析により資源量を推定した
- 資源量は1990年代後半に減少したが、2001年以降やや増加に転じた
- 漁獲量は加入の成否により決定される
- 2001年以降の加入は2000年よりも多かった

管理方策のまとめ

- 近年加入の変動が激しいので、今後の動向を注意深く見守る必要がある
- 資源状態を低位から増加させるには、現状のFをやや下げる必要がある

資源評価は毎年更新されます。